コラム ⑳

中嶋哲夫の「人事も歩けば」

鶴岡市三瀬の方々

山形県鶴岡市に三瀬（さんぜ）という地域があります。鶴岡市の中心部から車で20分ほど。川沿いの谷に沿って平地が広がり，山から海までを抱える地域。1,500人ほどの住民がおられます。江戸時代には，羽州浜街道の宿場街として賑わい，その情景が藤沢周平の短編「三年目」に描かれているそうです。

しかし，三瀬にはこれといった特徴がなく，鶴岡市街や月山，温海温泉など，近辺の有名観光地に埋もれがち。美林もあれば，荒れた林もある。漁師の体験や山菜採りもできる。スキー場や温泉と何でもあるのですが，特徴だけはない（三瀬の方，ごめんなさい）。そんな地区です。

今回，三瀬で地域おこしに取り組む方々と情報交換する機会をいただきました。そのなかに興味深い方が３人おられました。

１人目は，鶴岡にある大手企業のサラリーマン。50歳代後半の方です。以前このコラムで紹介した「生業の里」を訪問して以来，自分の住む地域の活性化を行いたいと，地道に取り組んでこられた方。地域の方々に働きかけて，今回の交流会を実現されました。

２人目は，自治会の副会長。大手企業を定年退職し，直ちに故郷の三瀬に戻ってこられた方。人生の最後の時間を地元に役立てたいと明確に言い切られました。

▲江戸時代から続く坂本屋旅館

３人目は，江戸時代から続く旅館の若主人。大手のオモチャメーカーで奥さんをゲットした後に退職。夫婦で故郷に戻り，旅館を継ごうとされています。

皆さんに共有されているのは郷土愛。地域を愛し，蓄積された営みを大切にすること。三瀬に役立ちたいという思い。そんなものがひしひしと伝わってきました。

皆さんとお話をしながら，２つのことを思いました。１つは，大手企業の訓練を受けた人材は，地域おこしという仕事においても，その方法を活用できること。２つ目には，高齢化の進展により，定年後に活躍できる時間が十分にもてるようになったこと。つまり，定年とともに故郷に戻り，そこから地域活性化の仕事に取り組んでも20年近い時間を使えること。学習期間，企業人期間（担当期間と幹部期間），地域人期間。こんな四住期を考えればよいと思いました。

（MBO実践支援センター代表）